

# 2023年3月期 第2四半期決算説明会



～人々の健康と豊かな暮らしのために～

<https://www.transgenic.co.jp>

2022年11月11日  
株式会社トランスジェニック

注：当資料に記載された内容は、現時点において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した経営計画に基づき作成しておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。また、今後の当社の経営成績及び財政状態につきましては、市場の動向、新技術の開発及び競合他社の状況等により、大きく変動する可能性があります。

<b>I. 2023年3月期第2四半期連結決算概要</b>	・・・ 2
<b>II. 創薬支援事業の状況（診断解析事業を除く）</b>	・・・ 8
<b>III. 投資・コンサルティング事業の状況</b>	・・・ 13
<b>IV. 2023年3月期連結業績予想</b>	・・・ 18



# I . 2023年3月期第2四半期連結決算概要

## 2023年3月期第2四半期連結業績

### 当第2四半期連結業績は前年同期比で大幅な減収減益で着地

売上高

**5,542百万円**

対2022年3月期第2四半期  
1,159百万円減 (△17.3%)

創薬支援事業 **1,817百万円減**  
(△58.9%)

投資コンサル事業 653百万円増  
(+18.0%)

本社・連結調整 4百万円増

営業利益

**134百万円**

対2022年3月期第2四半期  
1,467百万円減 (△91.6%)

創薬支援事業 **1,429百万円減**  
(△90.3%)

投資コンサル事業 **24百万円減**  
(△21.0%)

本社・連結調整 △13百万円増

親会社株主に帰属する当期純利益

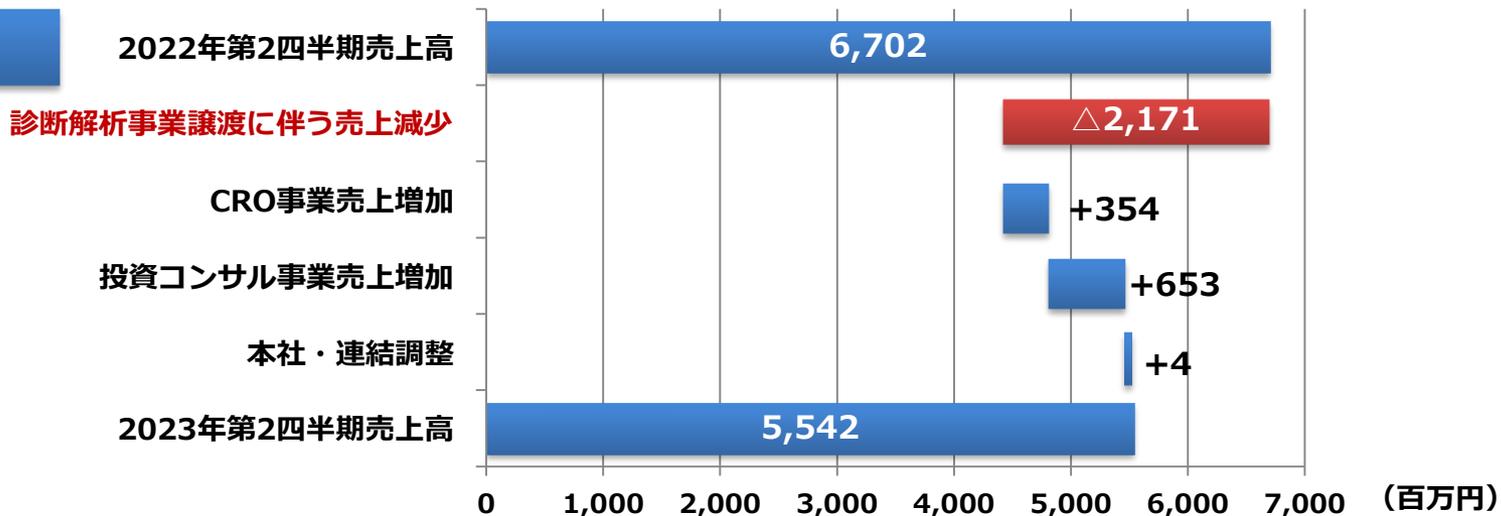
**54百万円**

対2022年3月期第2四半期  
926百万円減 (△94.4%)

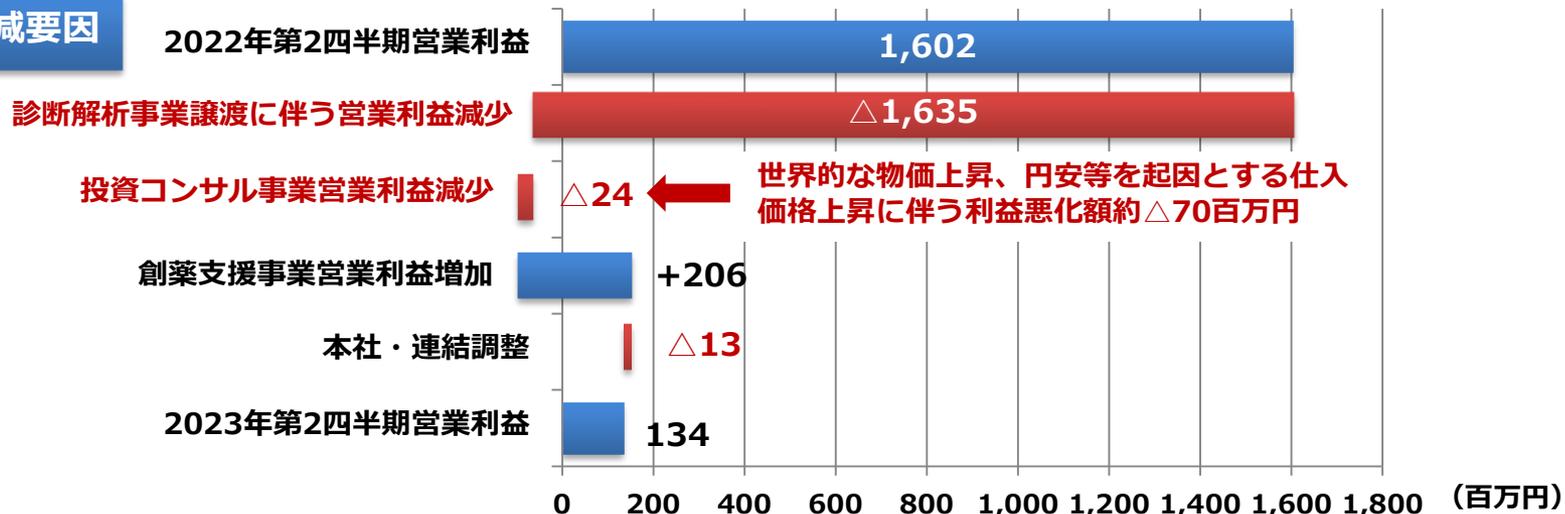
# 2023年3月期第2四半期連結決算：主な増減要因

連結売上高及び営業利益の大幅な減収減益は診断解析事業の譲渡が原因であり、グループの経営成績分析にあたっては同事業の除外が必要

## 売上増減要因



## 営業利益増減要因



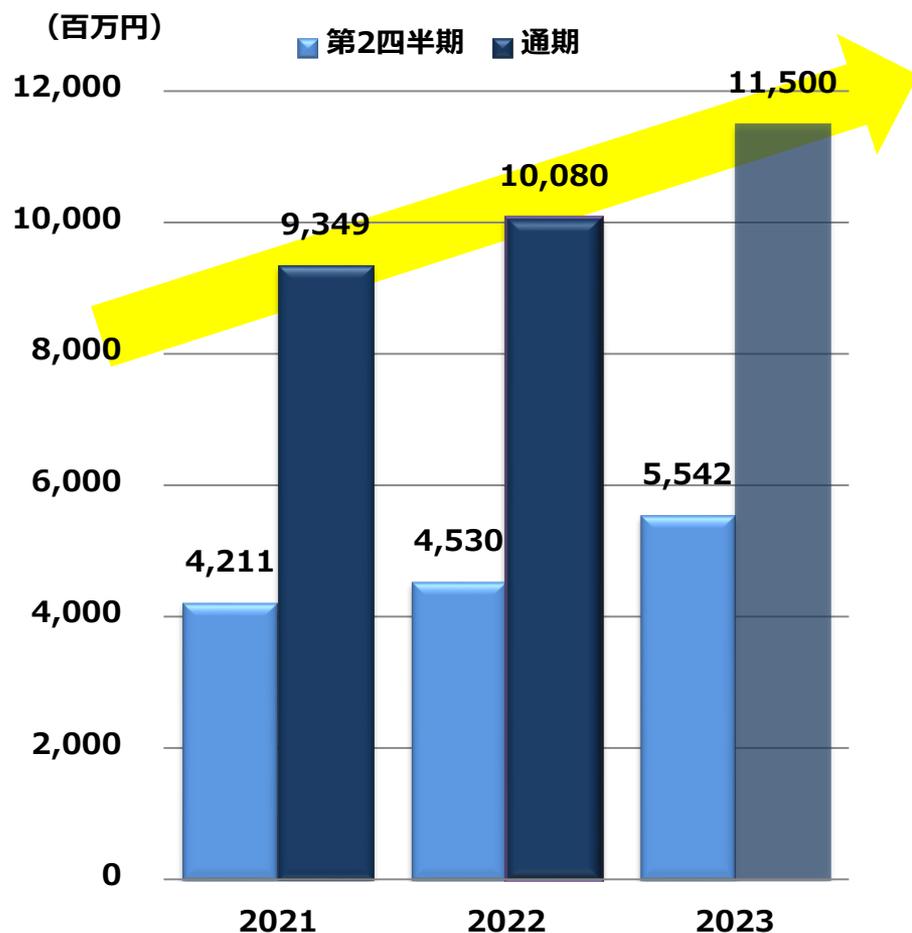
# 2023年3月期第2四半期連結決算：診断解析事業を除く業績比較

診断解析事業を除く連結業績は、前年同期比で増収増益、過去最高値で着地

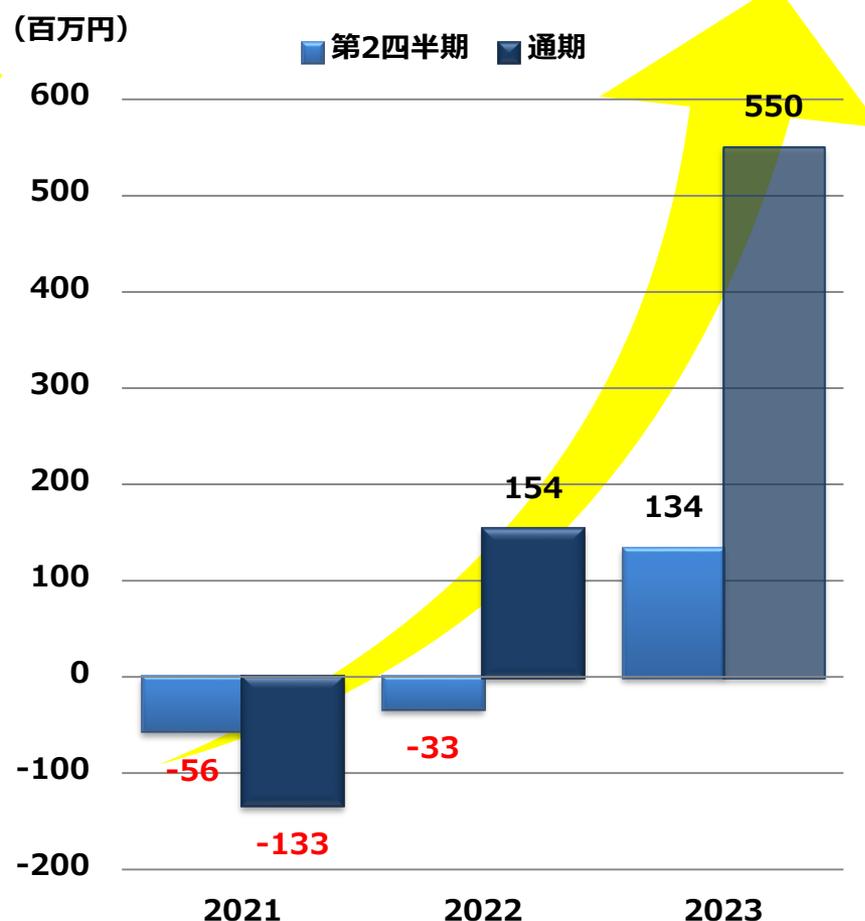
単位：百万円	A 2023年3月期 第2四半期	B 2022年3月期 第2四半期 (診断解析事業除く)	増減 (A-B)	
			百万円	%
<b>売上高</b>	<b>5,542</b>	<b>4,530</b>	<b>1,011</b>	<b>22.3</b>
創薬支援事業(CRO事業)	1,268	914	354	
投資・コンサルティング事業	4,276	3,622	653	
本社・連結調整	△2	△6	4	
<b>営業費用</b>	<b>5,407</b>	<b>4,563</b>	<b>843</b>	<b>18.5</b>
創薬支援事業 (CRO事業)	1,114	967	147	
投資・コンサルティング事業	4,184	3,506	677	
本社・連結調整	108	90	18	
<b>営業利益</b>	<b>134</b>	<b>△33</b>	<b>167</b>	<b>黒字転換</b>
創薬支援事業(CRO事業)	153	△52	206	
投資・コンサルティング事業	92	116	△24	
本社・連結調整	△110	△96	△13	

## 診断解析事業を除く連結業績は順調に推移しており拡大成長を維持

### 診断解析事業を除く 連結売上高の推移



### 診断解析事業を除く 連結営業利益の推移



## 当第2四半期においても、更なる成長のために引き続き積極的に投資を継続

単位：百万円		2022年3月期 (第2四半期)	2023年3月期 (第2四半期)	増減要因
営業 キャッシュ・ フロー	税引前利益	1,540	156	診断解析事業売却により当期利益は大幅減少
	たな卸資産の増加額	△425	△533	受注増による増加
	法人税等の支払額	△119	△291	診断解析事業売却益に関わる前期納税額増加
	その他	△112	△27	
		<b>882</b>	<b>△695</b>	
投資 キャッシュ・ フロー	固定資産の取得	△98	△152	主として非臨床実験設備への投資
	子会社株式の取得	△135	△692	M&A投資1社（投資・コンサルティング事業）
	その他	△3	243	
		<b>△237</b>	<b>△600</b>	
フリーキャッシュ・フロー		<b>645</b>	<b>△1,296</b>	
財務 キャッシュ・ フロー	有利子負債の増減額	△192	163	
	配当金の支払額	△52	△98	特別配当の実施
	その他	△76	－	前期は自社株買いを実施
		<b>△320</b>	<b>64</b>	
現金及び現金同等物の増減額		<b>324</b>	<b>△1,223</b>	
現金及び現金同等物期首残高		<b>3,030</b>	<b>4,618</b>	
現金及び現金同等物期末残高		<b>3,354</b>	<b>3,394</b>	積極投資後でも前年同期並の現金預金を維持



## Ⅱ. 創薬支援事業の状況（診断解析事業を除く）

## 事業概要・特徴

祖業である遺伝子改変事業を起点として、創薬の初期段階である探索基礎研究・創薬研究から、非臨床試験、臨床試験まで創薬のあらゆるステージに対応できるシームレスなサービスを提供

研究所名	神戸研究所	安評センター中央研究所	新薬リサーチセンター中央研究所
所在地	神戸市中央区港島町7-1-14	静岡県磐田市塩新田582-2	北海道恵庭市戸磯452-1
所属会社	(株)安評センター (株)新薬リサーチセンター 医化学創薬(株)	(株)安評センター	(株)新薬リサーチセンター 医化学創薬(株) (2022年10月移転)
機能・特徴	遺伝子改変事業・大動物薬理薬効試験を実施	小動物～大動物に加え、水生動物・昆虫・水草まで網羅した安全性試験・遺伝毒性試験・環境毒性試験を実施	小動物薬理薬効試験、医薬・食品臨床試験を実施
施設認証	JAPIC認証※1施設 	AAALAC※2完全認証施設 GLP※3認証施設 	GLP認証施設 JAPIC認証施設 

※1 JAPIC認証：JAPIC認証とは、一般財団法人日本医薬情報センター（Japan Pharmaceutical Information Center）が、動物実験実施機関における「動物愛護管理法」及び「飼養保管基準」並びに各省の定める「基本指針」に従い、動物実験等の自主管理の促進とともに動物愛護の観点に配慮しつつ、科学的観点に基づく適正な動物実験 等が実施されているかを検証し、認証するものです。

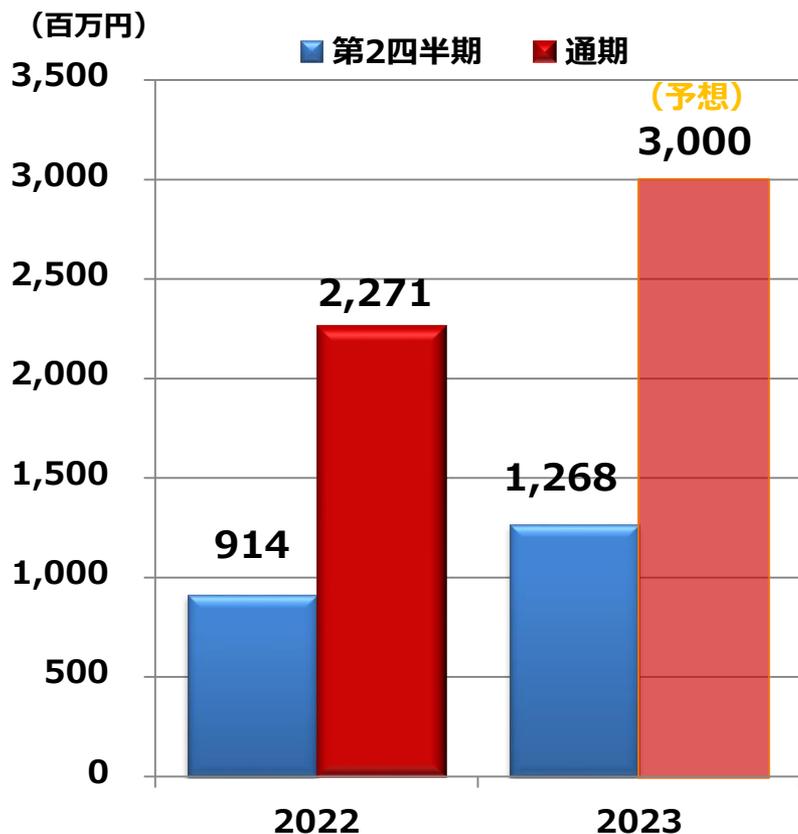
※2 AAALAC(The Association for Assessment and Accreditation of Laboratory Animal Care International/国際実験動物ケア評価認証協会)：AAALACは、世界で唯一の国際的な第三者評価機関で、3R(Reduction:使用する動物数の削減)、Replacement:代替の実験方法、Refinement:動物の苦痛軽減)の原則を踏まえ、科学社会における動物の人道的な取り扱いを推進しています。世界中の医薬品及びバイオ技術企業、研究機関等がこの認証を取得しており、動物実験及び動物管理が倫理的に実施されていることの実証として認められています。

※3 GLP(Good Laboratory Practice)：GLPとは、非臨床試験において、試験施設(場所)の設備・機器、組織・職員、検査・手順・結果等が、安全かつ適切であることを保証する「優良試験所規範(基準)」です。

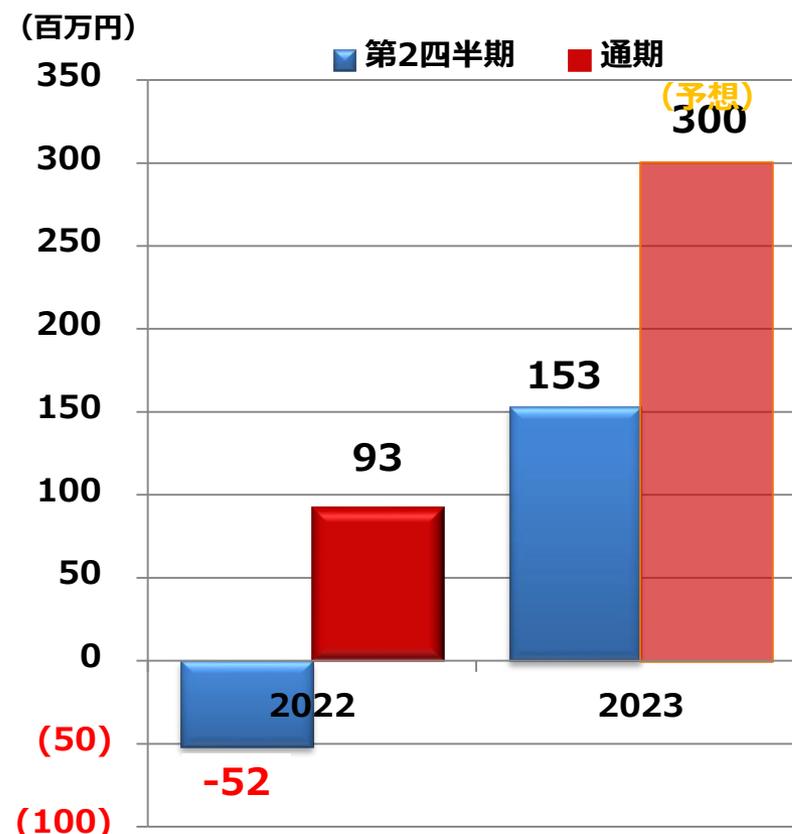
# 創薬支援事業：業績概要

- 上半期：遺伝子関連技術に強みを持つCRO事業は着実に事業拡大を続けており売上高は前年同期比で38.7%の増収、営業損益は206百万円の増益
- 下半期：引き続きCRO事業への設備・人員投資の継続、新規技術開発・導入を積極的に行いオンリーワンの創薬支援事業グループ構築に邁進

## 売上高



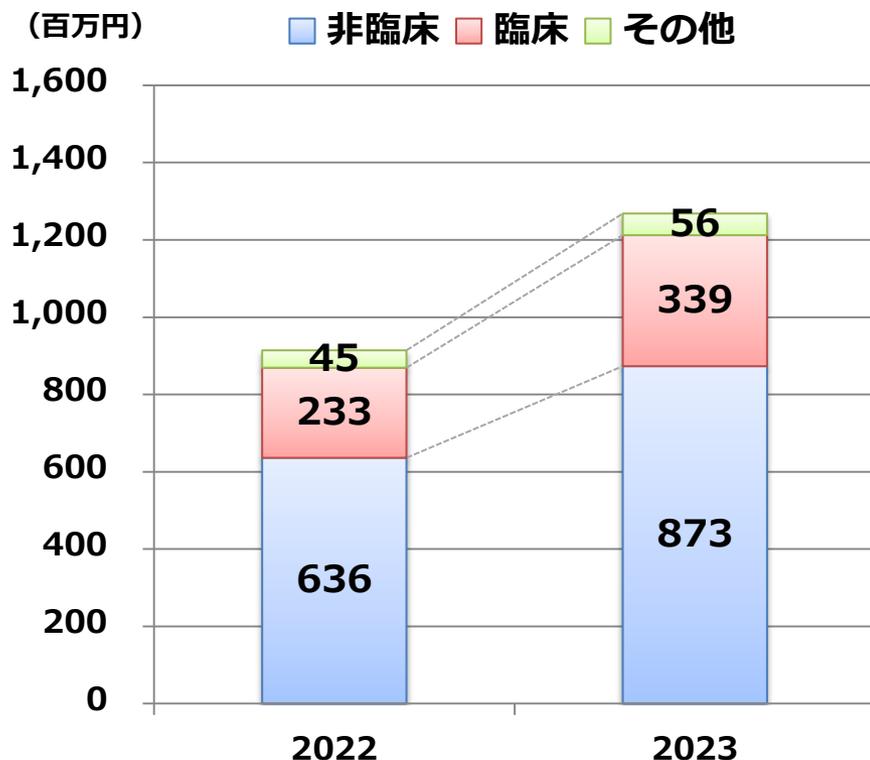
## 営業利益



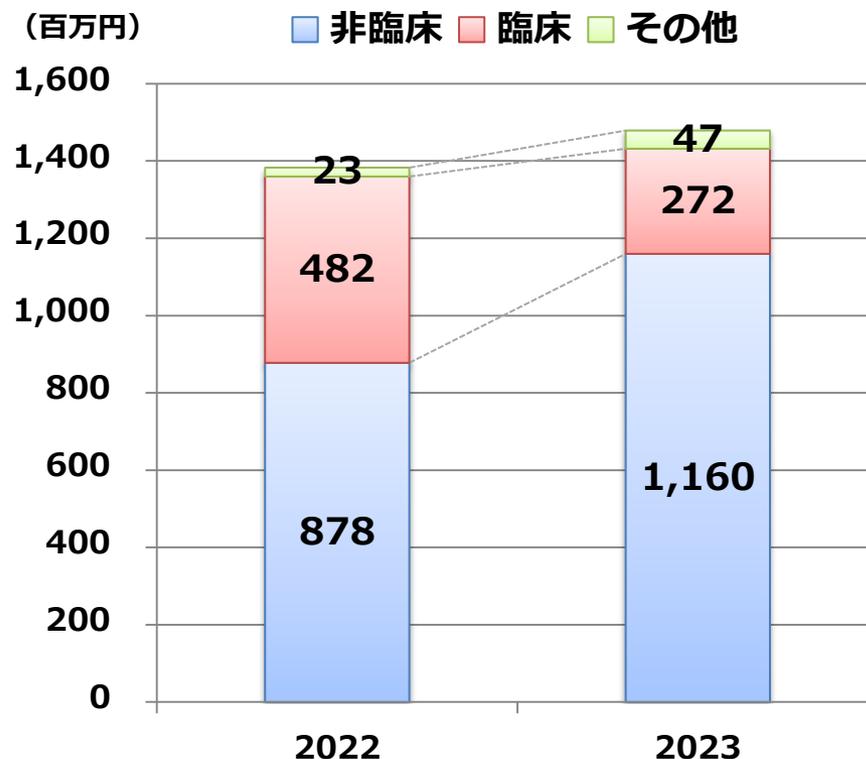
# 創薬支援事業：業績概要

- **非臨床**：遺伝毒性試験、医療機器関連試験の受注・売上が増加。また、大動物試験の拡充及び営業網強化が奏功し、海外（欧州、アジア）からの受注が増加
- **臨床**：コロナ禍の反動による前期受注増で当期売上増加（上期繰越受注残は逆に減少）

### 上期売上高



### 上期繰越受注残



# 創薬支援事業：新たな取り組み

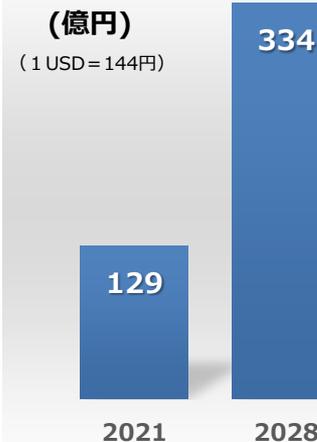
次世代創薬スクリーニング技術として期待されているトランスジェニックゼブラフィッシュ（以下、「TGZF」）の開発及び事業展開を目的に、(株)安評センター（以下、「BSRC」）が、(株) MZTと業務提携契約を締結するとともに、(株)アンジェス（以下、「AnGes」）と共同研究開発契約を締結

## 強み・特徴

## 提携目的

<p><b>業務提携契約</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゼブラフィッシュを用いたヒト疾患モデル等に関連した三重大学特許の非独占的通常実施権を保有</li> <li>次世代薬物スクリーニング技術として注目されている多数の透明TGZFを開発し、医薬品開発や機能性食品開発及び環境安全性管理にTGZF創薬技術として提供</li> </ul>	<p>高い成長が期待されるTGZFを用いた創薬支援市場に参入し、国内随一のサービスを他社に先駆け提供することで、リーディングカンパニーを目指す</p> <p>※ゼブラフィッシュは、ヒトとの疾患ゲノム類似性が約80%など、人への外挿性が高く、スクリーニングが簡便なことから需要が高まっており、TGZFモデルは薬剤に対する反応性の確認に有効であると期待されています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>トランスジェニック（遺伝子改変）技術を保有</li> <li>TGZF等の水生生物を用いた農薬の登録申請に必要な環境毒性試験が実施可能な数少ない国内CROであり、評価技術を既に構築し高い受託実績を保有</li> </ul>	

ゼブラフィッシュ  
世界市場規模  
年平均成長率14.51%



※ Global Information “ゼブラフィッシュの世界市場（2022年）”引用

## 共同研究開発契約

## 開発内容

## 開発目的

	<ul style="list-style-type: none"> <li>BSRCは炎症性刺激によるGFP発現、および薬剤に対する反応性の確認が可能なTGZFモデルを開発</li> <li>AnGesは開発候補の薬剤及び炎症に関連する既市販薬剤を投与しTGZFモデルの有用性を検証</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>BSRCは確立したTGZFモデルを用いて次世代創薬スクリーニングサービスを広く展開</li> <li>AnGesは開発候補薬剤のスクリーニングが、いち早く可能となり創薬研究開発を加速</li> </ul>
--	---	---



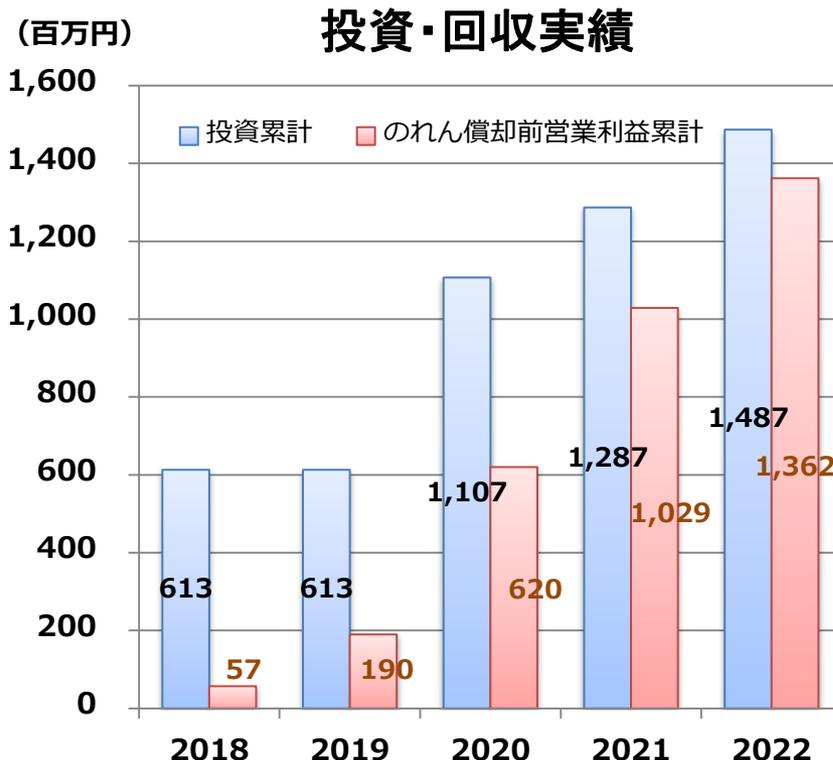
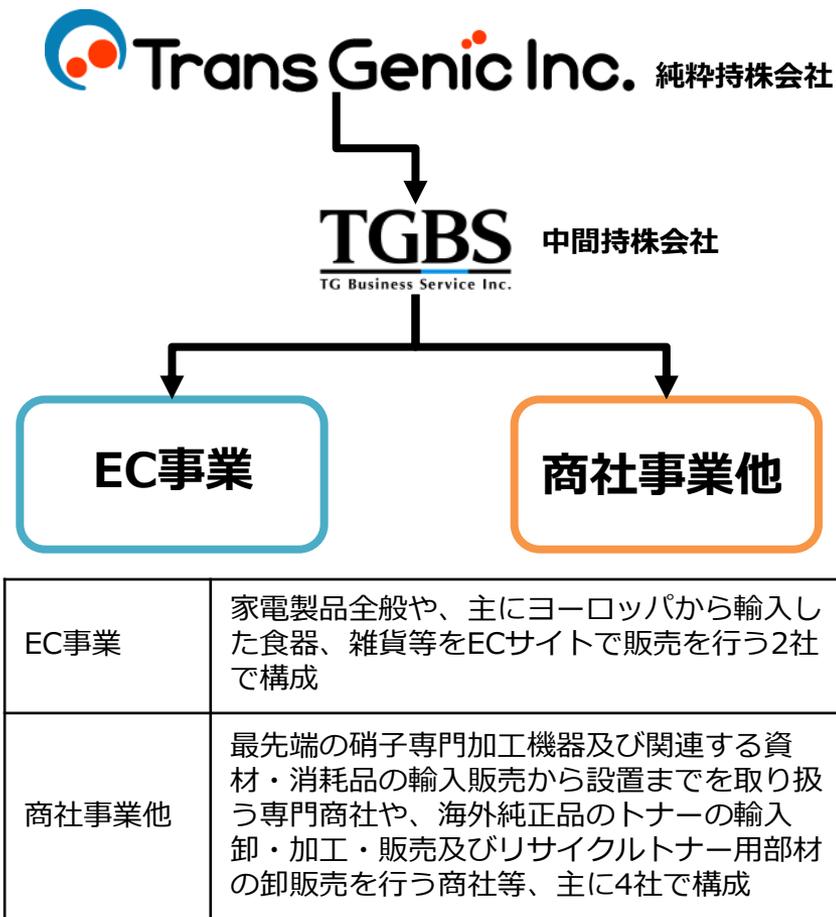


## Ⅲ. 投資・コンサルティング事業の状況

# 投資・コンサルティング事業：事業概要及び特徴

## 事業概要・特徴

M & Aによる新規事業の推進と幅広い分野における事業承継及び事業再生分野に係る助言・支援及び投資を実行。事業承継案件を対象に、「ニッチ・黒字安定・自走経営」を投資要件として、当上半期時点で主要6社に投資を実行し事業運営

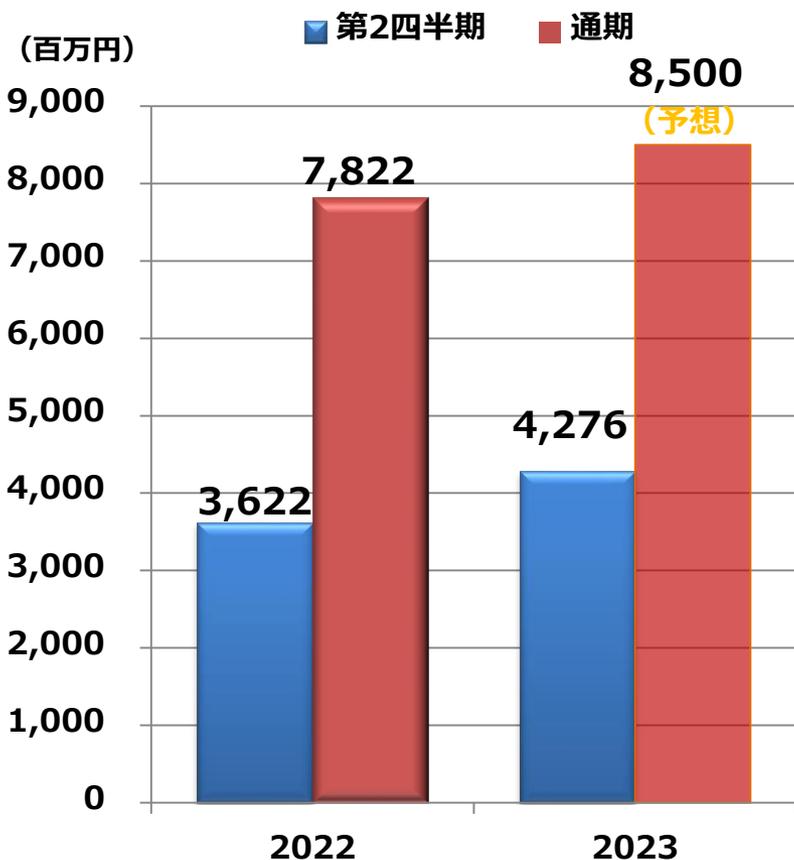


M&A市場が拡大している事業承継案件を対象に、ここまで、「ニッチ・黒字安定・自走経営」を投資条件として投資を実行。今後も、投資回収状況、グループの財務状況を見て投資を継続し事業拡大を図る方針。

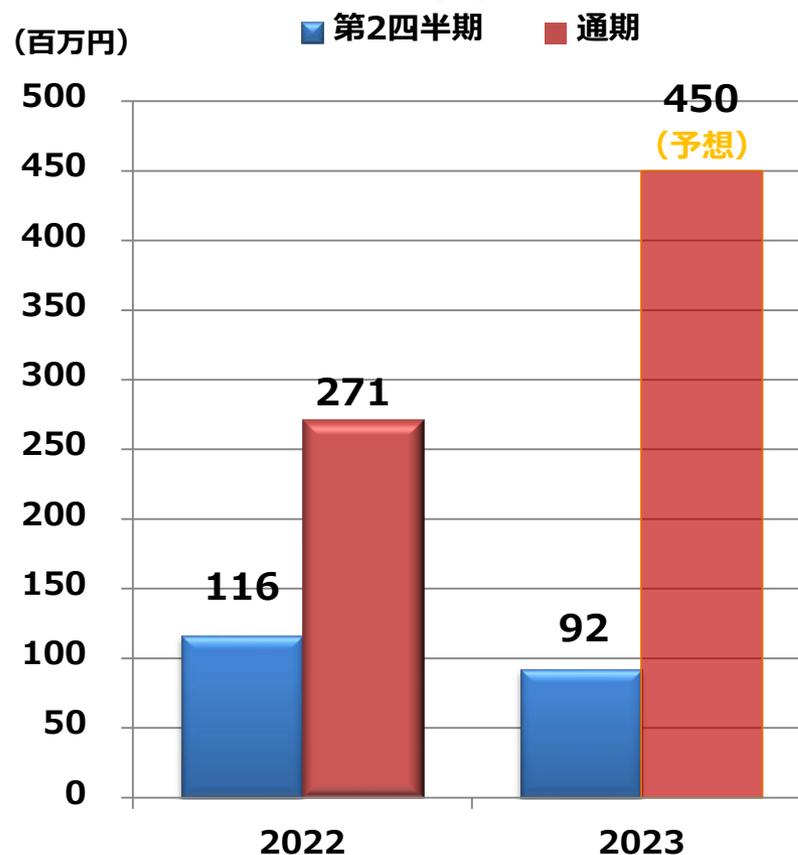
# 投資・コンサルティング事業：業績概要

- 上半期：売上高は商社事業の復調により前年同期比で増収となるも、世界的な物価高、円安を背景に、輸入販売を主とするEC事業、商社事業の仕入価格が上昇し減益
- 下半期：下半期も物価及び為替動向を注視し、価格転嫁、新規商材導入を進め業績確保に注力

## 売上高



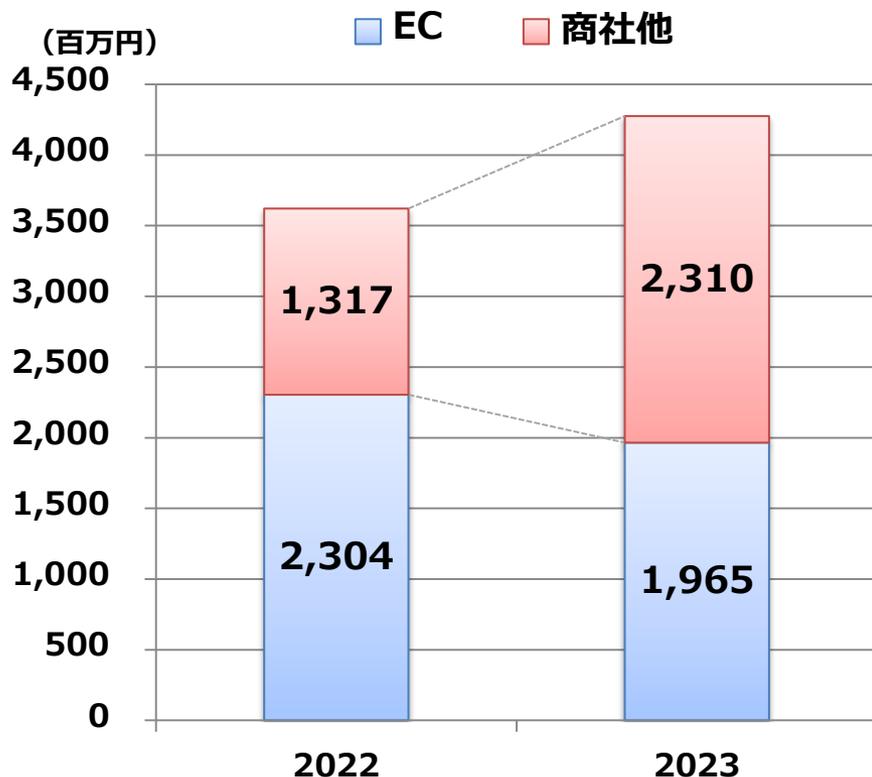
## 営業利益



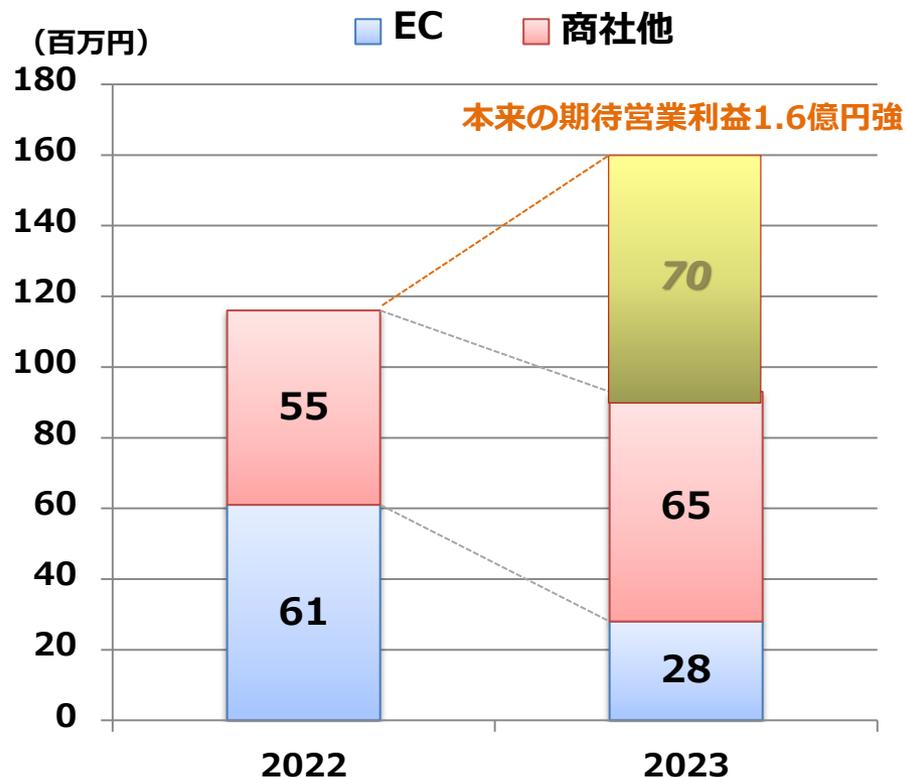
# 投資・コンサルティング事業：業績概要

- **EC** : 半導体不足による家電流通停滞による売上・利益が低迷、また、世界的な物価高、円安による輸入価額上昇で食器・雑貨販売の売上・利益も低迷し減収減益
- **商社他** : 世界的な経済活動再開により、売上高は回復するも、世界的な物価高、円安による輸入価額上昇に対して価格転嫁が追いつかず利益面で苦戦（価格転嫁未了に伴う利益悪化額約70百万円）

## 売上高



## 営業利益





## MAISON&OBJET PARIS

(メゾン・エ・オブジェ) フランスパリ 9月

販促活動強化



コロナ禍で渡航が制限されていた海外展示会へ2年ぶりに参加

## The 41st JAPANTEX 2022 INTERIOR TREND SHOW

(ジャパンテックス) 東京 10月



東京ビッグサイトで開催されたインテリア展示会に壁紙等を出展

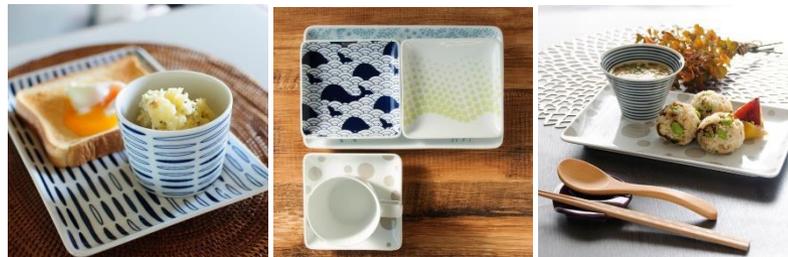
輸出事業強化

## IRON HORSE

(アイアンホース)  
輸出用リキュール



ブランド強化





## IV. 2023年3月期連結業績予想

## 2023年3月期 連結業績予想

通期連結業績予想は診断解析事業を除く前年同期比で増収増益、過去最高値を予想

単位：百万円	2023年3月期 (通期予想)	2022年3月期 (実績) ※診断解析事業除く	増減	
			百万円	%
<b>売上高</b>	<b>11,500</b>	<b>10,080</b>	<b>1,419</b>	<b>14.1</b>
創薬支援事業(CRO事業)	3,000	2,270	729	32.1
投資・コンサルティング事業	8,500	7,822	677	8.7
本社・連結調整	-	△13	13	-
<b>営業費用</b>	<b>10,950</b>	<b>9,925</b>	<b>1,024</b>	<b>10.3</b>
創薬支援事業 (CRO事業)	2,700	2,177	522	24.0
投資・コンサルティング事業	8,050	7,551	498	6.6
本社・連結調整	200	196	4	△4.8
<b>営業利益</b>	<b>550</b>	<b>154</b>	<b>395</b>	<b>255.1</b>
創薬支援事業(CRO事業)	300	93	206	220.0
投資・コンサルティング事業	450	271	178	65.9
本社・連結調整	△200	△210	10	4.8



～人々の健康と豊かな暮らしのために～

<https://www.transgenic.co.jp>